石川・磯部（いそべ）カンダ遺跡

1　所在地　金沢市磯部町
2　調査期間　一九九五年（平7）八月～一二月
3　発掘機関　金沢市教育委員会
4　調査担当者　楠　正勝
5　遺跡の種類　集落跡・官衙跡か
6　遺跡の年代　古墳時代前期・平安時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

磯部カンダ遺跡は、金沢市街地の北方約二kmに位置し、西約〇・五kmには浅野川がある。遺跡は浅野川右岸に形成された自然堤防の外側に広がる後背湿地内の微高地に立地する。

（金　沢）

磯部カンダ遺跡の調査は、農道新設工事に伴い金沢市教育委員会が実施したものである。農道部分（幅九m総延長二〇〇m）の調査であったために、遺跡の分布範囲は不明である。

調査の結果、平安時代（九～一〇世紀を主体とする）の遺物を包含する自然流路（幅九m深さ二m）と掘立柱建物数棟（規模不明）が検出され、自然流路からは多量の祭祀遺物が出土した。現在のところ、人形一七点、斎串三六点、鳥形一点があり、その他祭祀に関連すると思われる銅製鈴一点が流路の肩部から出土しており、木簡もこの自然流路から出土した。

自然流路を中心に先述した祭祀遺物の他にも多種多様なものが出土している。土器は須恵器・土師器を主体とし、少量の灰釉陶器と製塩土器（平底）がある。木器は扇・皿・曲物・箸状木器・下駄・火鑽臼がある。

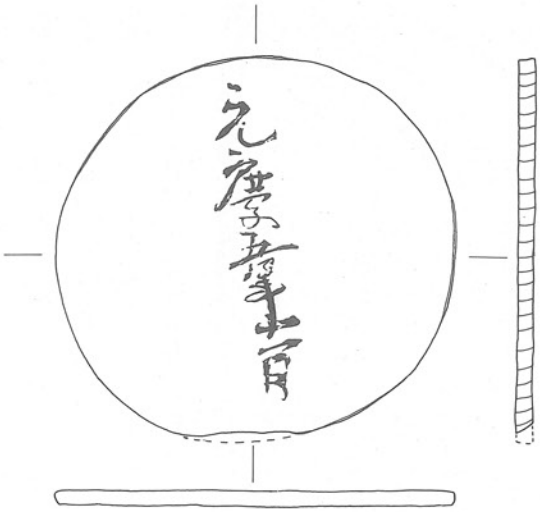
墨書土器は須恵器・土師器合わせて約五〇点出土しているが、前者が主体となっている。主な墨書としては、「大」が四点、「大野」が三点と多く、他には「酒坏」「豊」「宮」「里」「十二月□」「三月□」がある。「大野」は当遺跡から北西約五kmに位置する地域（犀川と大野川の河口部周辺）の古代加賀郡の郷名と見られる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「元慶五年十一月」　　径156×厚7　061

文字は曲物の底板内側に墨書されている。元慶五年は西暦八八一年にあたる。なお、木簡の釈読は、国立歴史民俗博物館の平川南氏による。

（楠　正勝）



細長い角柱状に作り替えられた木簡

二条大路木簡の中には、二次的に整形して長さ八cm強、幅・厚さとも五mm程という、細長い角柱状にした木簡がいくつか含まれている。ここでそのうちの三点を紹介する（すべてこれまで報告されていないものである）。いずれも文字は二次的整形によって欠損している。ほぼ同形であることから、何らかの規格に基づいて作られたとみられる。これらの木簡の用途については、算木ではないかとの推測も出されており（本誌掲載の鈴木景二論文参照）、興味深いところである。

(1)　□物部牛養□　　82×5×6　011

(2)　・□　□
　　・　□　　83×5×5　011

(3)　□　　87×8×8　011

（(1)はSD五三一〇、(2)(3)はSD五三〇〇からの出土で、いずれも二条大路の北側路肩に掘られた濠状遺構）

（渡辺晃宏）